

短歌

【小学1年生・2年生】

特選 たのしいなおうえんがっせんうんどうかい

大きなこえでおうえんするよ

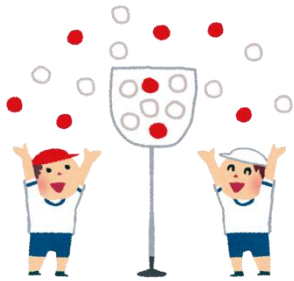
城南小学校1年 江畑 和哉

(評) うんどうかいのたのしさを、じょうずにうたにできました。おおきなこえ

でおうえんするようすがよくあらわれていて、よかったとおもいます。

これからもよいうたをたくさんつくってくださいね。

(彦根文芸協会 河分 武士)



準特選

せりかわでひこねりんごのしゅうかくだ
たくさんとれてたのしかったよ

金城小学校1年 佐竹 香穂

(評)

ひこねりんごのしゅうかくに、さんかされたのですね。たくさんとれてうれしかったきもちが、よくわかります。

そのときじぶんがどうおもったかをうたにされたのが、とてもよかったです。これからもうたをつくってくださいね。

(彦根文芸協会 河分 武士)

佳作 こいさんがスイスイと泳いでる

えさをあげたらえさのとりに合い

亀山小学校2年 田中 美結

入選

かぜがふきゆらゆらゆれるながいたけ
そらまでのびてせいくらべかな

城西小学校1年 徳永 明李

【小学3年生・4年生】

特選　　デイズニーにきていく服をえらんでる
おうちでわたしファッションショー

金城小学校3年　西野　翠栞

(評)　待ちどおしいデイズニーランドへの旅に心うきうき着ていく服をえらん
でいるようすがよくわかります。自分でもファッションショーのように思えて
しまうところが面白いと思います。「何があつて」、「私はどう思う」が出てい
るので、良い歌になりました。

(彦根文芸協会　河分　武士)

準特選　　夜の空お城と満月ならんでる
すすきもゆらゆら彦根の秋だ

城東小学校4年　小山　みなみ

(評)　満月と城、すすきもゆれる秋らしい風景を歌にされました。これを見て作
者は、これこそ彦根だけの秋だとほこりに思っています。
ふるさとを愛する心はとても大切なことで、この歌は上手にまとまってい
て、読者も引き込まれるようでもとても良かったと思います。

(彦根文芸協会　河分　武士)

佳作　　きれいだなぶんかプラザのおはなたち
ちっちゃなからだがまぶしくひかる

金城小学校3年　佐竹　由妃

佳作　　秋の道落ち葉と木の実重なって
サンドウィッチ作っていたよ

城南小学校3年　西堀　有咲

入選　　いもうとがわらうとわたしもうれしくて
なぜだかいっしょにわらってしまう

稲枝東小学校4年　山田　萌夏

入選　　お月見でだんごをほおばり月を見る
うさぎもだんご食べているかな

城東小学校4年　田中　美希

入選　　コスモスの花がゆらゆらゆれている
みんなで仲よく遊んでいるよ

城北小学校4年　北川　七虹

【小学5年生・6年生】

特選 モミジ見て思う手いつも赤子の手

モミジ見るたび思う妹

城東小学校5年 廣田 紫星

(評) もみじに赤子の手を思い、もみじを見れば妹を思うと、自分のことばでなめらかに詠まれ最高です。「モミジ」は日本語ですから、「もみじ」と書いてください。この賞を忘れず、短歌を一生の友として詠み続けてくださることを期待します。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

特選 お月様小さな星といつしよだと

おもしろそうに町を照らすよ

城東小学校5年 山田 蒼葉

(評) 仲秋の名月、雲もなく星空もかがやき、町が明るかったのでしょう。作者は、仲秋の名月を見るまま感じるまま、五、七、五、七、七にうまくまとめられ良い歌になりました。楽しく詠まれた歌は、読者も楽しいです。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

準特選 たのしみは自分で買った小説の

事件や出来事解いている時

稲枝北小学校6年 溝口 真唯子

(評) 数ある「たのしみは」の歌の中から、本を読むというこの作品を選びました。それは、「小説の事件や出来事解いている時」という、作者ならではの楽しみ方に心を打たれたからです。これからも短歌や読書を続けてください。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

準特選 久しぶりさういう相手雪だるま

気のせいかしら君も笑った

城西小学校6年 井口 ゆう

(評) 回想の歌です。昨年、彦根は大雪でした。作者は、大きな雪だるまを作ったのでしよう。「久しぶり」と声をかけ、「気のせいかしら君も笑った」と雪だるまを擬人化して詠んでいます。「君も笑った」は大発見です。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

準特選 いじめはね心傷つくものだから

それを無くすは皆の勇気

城北小学校6年 阿萬 文音

(評) 短歌は、理屈を説明するものではありませんが、今の世の「いじめ」を、何とかしたいとねがう作者の気持ちを感じた歌です。尊い命を大切にしていじめのない世の中になってほしいものです。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

準特選

せんそうはだれもがかなしむあらそいだ
にどとおこすなせんそうなんて

高宮小学校6年 桂田 紗矢香

(評)

戦後七十年が過ぎ、戦争の恐ろしさや悲しみを知る人も少なくなりました。戦争について学んだ作者の「にどとおこすなせんそうなんて」に、平和でなければと思う強い祈りが込められています。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

準特選

たのしみは家で作詞をかいてから
試しに歌って考えるとき

高宮小学校6年 三谷 亜稀

(評)

作詞を「たのしみ」に曲までも作って、試しに歌って考えている作者。与えられてするのでなく、音楽を自発的にたしなんでいるというのはすばらしい趣味ですね。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

準特選

まんまるの秋の夕日に目をほそめ
小さなため息静かについた

平田小学校6年 伊吹 彩希

(評)

学校の帰り道でしょうか。まんまるの秋の夕日をながめ、感動しています。このすばらしさを「目をほそめ小さなため息静かについた」と表現できたことは成功です。心を詠んだ短歌です。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

佳作

寒すぎて自然にふるえる秋の朝
とびら開けると真っ赤なもみじ

城東小学校5年 田部 希乃

佳作

秋の夜星空見上げ美しく
やっぱり秋はスーパームーン

亀山小学校6年 高田 茉代

佳作

たのしみはラグビーのときタックルが
きまっていつてほめられる時

旭森小学校6年 山本 真士

佳作

明治村初めて乗ったSLで
体と自然一体になる

城南小学校6年 齋藤 梨花

佳作

パソコンやゲームラジオを取り上げられ
戻ってくる日は千里ほど先

城北小学校6年 綿谷 明太郎

短歌

佳作

たのしみは運動会の組体操
みんなで協力成功した時

城北小学校6年

清水 葵葉

佳作

音楽会思いをこめておそらまで
きれいな歌声ひびかせよう

城陽小学校6年

田中 夢美里

佳作

たのしみはどたばたしゅっしゅったたみの音
相手と柔道無心になるとき

高宮小学校6年

藤田 悠貴

佳作

たのしみは八年あとの六の二が
再会するのを想像する時

高宮小学校6年

小川 結菜

入選

エレクトーンひくとなんだかいい気持ち
悲しい時は元気になるよ

稲枝西小学校5年

堀部 千穂

入選

音楽会いろんな楽器が鳴りひびき
きれいな音色に心もおどる

城東小学校5年

北村 勘也

入選

コスモスが風にゆらゆらいいにおい
辺り一面うすも色だ

平田小学校5年

吉川 桜空

入選

平田山みどりの服もあかになり
パツと辺りもあかいろになる

平田小学校5年

吉岡 せり

入選

たのしみは静かな場所で本を読み
ゲームをやってすっきりした時

旭森小学校6年

嶋内 慶俊

短歌

入選

楽しみは家族そろって食卓で
今日のできごと話し合う時

旭森小学校6年 森野 裕大

入選

楽しみは発表会で家族に
練習の成果見てもらう時

旭森小学校6年 平原 凜乃

入選

たのしみは交かんノート書き合って
きれいにかざり朝わたすとき

旭森小学校6年 木水 美帆

入選

たのしみは親子そろって川にゆき
ひっしになって小あゆつる時

稲枝北小学校6年 集治 徹也

入選

たのしみはおふろに入って姉ちゃんと
アンフェアワールド歌っている時

稲枝北小学校6年 西川 沙妃

入選

強いかぜどんぐりの実がゆれおちて
どんぐりころころころがっていく

亀山小学校6年 田中 伶

入選

秋の朝山のふもとのドングリは
落葉にかくれ時過すなり

亀山小学校6年 深谷 新

入選

止まらずに息切れしながらがんばった
完走達成マラソン大会

城西小学校6年 加藤 快

入選

夜になり虫たちみんな集まって
きれいな音色の演そう会

城西小学校6年 安田 早希

入選

たのしみはいえにかえつていもうとと
話しながらいよりするとき

城西小学校6年 高山 美咲

短歌

入選

けやき道川のせせらぎ聞きながら
緑のトンネルくぐって散歩

城東小学校6年 池上 琉加

入選

思い出は6年最後の運動会
組み体操で完全燃焼

城北小学校6年 加納 優

入選

たのしみは好きな音楽聴きながら
静かに本を読み始める時

城北小学校6年 松田 京珠

入選

冬の空雪がつもって雪遊び
みんなで楽しくかまくら作り

城陽小学校6年 疋田 柊平

入選

たのしみはぎりぎり点差でプレッシャー
チームワークで勝った時

高宮小学校6年 中村 咲織

入選

楽しみは九州に住むいとことね
2年に1度再会した時

高宮小学校6年 北村 厚人

入選

たのしみは練習していたまにある
思い通りの絵がかけた時

高宮小学校6年 北川 茉帆



【中学生】

特選

被災者を助けてあげたい僕がいる

大切なのは助け合うこと

中央中学校2年 松岡 龍

(評)

被災者を見て、困っている人が居れば助けてあげたいという作者の優しい
思いが強く伝わって来ます。その次にみんなにも呼びかけたい「助け合うこ
との大切さ」を短い言葉の中にきちんとまとめられました。

短歌には状況をしっかりと見て、自分の思いを言うことが、とても大事な
ことです。

(彦根文芸協会 河分 武士)



準特選

卒業式友達とおわかれさみしいな

みんないままでありがとうね

稲枝中学校2年 田中 麻萌

(評)

色々な思いや体験をして過ごした中学校での生活もやがて小鳥が飛び立つ
ように去って行かなければなりません。卒業が近づくと、別れの寂しさと同
時に、共に学んだみんなにお礼を言いたい気持ちでいっぱいになってくるとい
う。美しい歌としてよくまとまりました。結句は「ありがとう」で良いと
思います。

(彦根文芸協会 河分 武士)

準特選

見上げればほのかに光るおぼろ月

日々のつかれを光に溶かす

稲枝中学校2年 富居 茉央

(評)

おぼろ月は春の夜などにほのかにかすんだ月のことで、ロマンチックな夜
でもあります。

勉強や部活など色々な理由で疲れたときにおぼろ月を見上げていると、い
やされるものがあるという。結句はとても大切で、「光に溶かす」の表現は、
作者独自の感想で、この歌を引きしめて、とても良かったと思います。

(彦根文芸協会 河分 武士)

準特選

万引きは自分の心に消えないまま

心に針がつきささるのだ

中央中学校2年 北川 ひかり

(評)

万引きは良くないことだとわかっているはずなのに、誘われるとついつい
手を出してしまい、悪いことをしたと後悔しても消えないものが残るとい
う。作者は自分の思いを「事実自分の心の中に傷として残る」と、若者として
きっぱりと歌にして宣言されたことはとても意義深いものがあると思います。

(彦根文芸協会 河分 武士)

短歌

佳作

温かい一度入ると出られない
ふとんやこたつ持ち歩きたい

鳥居本中学校1年 安達 大河

佳作

クリスマスサンタさんからプレゼント
寒さに負けない体が欲しい

稲枝中学校2年 田附 駿

佳作

クリスマス家族と一緒に過ごす夜
笑顔がたくさん思い出たくさん

稲枝中学校2年 上林 咲

佳作

さつまいもたくさん食べたら音が出た
そこからあふれるみんなの笑顔

稲枝中学校2年 尾崎 礼奈

佳作

くるまからモーモーおこるうしのこえ
うしすきだからおこらないでね

西中学校2年 湯沢 零司

入選

青空に向かってひらく花びらが
笑顔をさそう向日葵の花

稲枝中学校2年 藤野 海斗

入選

甲子園高校野球を応援だ
ファインプレーに鳥肌が立つ

稲枝中学校2年 塚本 優月

入選

もみじ葉が風に吹かれて舞う度に
鮮やかになる自分の世界

稲枝中学校2年 本田 彩亜紗

入選

すばらしい桜舞い散る卒業式
感きわまつて涙ぼろぼろ

稲枝中学校2年 荒見 亮也

入選

紅葉の葉青から赤へ染め上がり
道行く人に笑顔を与える

稲枝中学校2年 野田 奈未

入選

朝起きて飲んだスープの湯気の中
そこから感じる小さな“幸せ”

中央中学校2年 山瀬 もえか

入選

森の中静かに耳をすませれば
聞こえてくるよ落ちばの会話

中央中学校2年 岸辺 有紗

入選

あいさつはいつも笑顔で元気よく
みんなの心をきれいにしよう

中央中学校2年 内堀 美羽

入選

それはダメ言える気持ちがいやり
みんなが言えばみんなが笑顔

中央中学校2年 尾本 武揚

入選

努力してつかんだチャンス生かす為
仲間と共にゴールをめざす

中央中学校2年 古家 茉奈

入選

スタートのふえが鳴って走り出す
ゴールの先にはみんなのえがお

東中学校2年 青木 梨々華

入選

おつかれさまその一言がホツとする
疲れたあとの贈り物やね

西中学校3年 澤島 知佳



【総評】

小学生は、「楽しかった」「面白かった」などの感動や、見たり聞いたり、「体験して感じた」という、素直な短歌が多くありました。今までに何度も指摘のあった「楽しみは」で始まる短歌は、「形が得意やすいからまねをする」ということを止めて、「独自の感動を、子どもらしく短歌にする」という進歩に出会えたのを嬉しく思います。

中学生は、色々なテーマに取り組み、個性を出すように、努力の跡が見られたのを喜びたい。よいテーマや視点を選んで、自分だけの発見を短歌にすると、ひとの目を引くことになります。

目についたことは、字数が多すぎたり(字余り)、逆に字足らずになると、五・七・五・七・七のリズムを壊します。何度も読み返して、おかしいところは直してから出してください。

全体的に、今までと比べて少しづつでも進歩が見られるのは喜ばしいことで、今後に期待が持てます。

短歌作りに大切なことは、先ず他人の作った短歌を多く読んで勉強してから、次に自分の短歌を多く作っていただきたい。その中から「これ」と思う自信のある短歌を選んで出すのが望ましいと思います。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

(彦根文芸協会 河分 武士)

